

# 新しいごみ処理施設の整備について

～ごみを最新の技術で処理し  
衛生的な社会の構築を～



(イメージ: 武蔵野クリーンセンター)

北茨城市

# 1 新しい清掃センターの必要性

- 北茨城市清掃センターは、建設後39年を経過した古い施設です。
- 「東日本大震災」が発生し、膨大な量の廃棄物を老朽化した施設で短期間に処理を行い、施設にさらに負担をかけることになりました。
- 平成26年度には専門家などで構成する「環境施設等整備検討審議会」から「清掃センター更新」の回答が出されていました。
- 市民生活と直結した施設であり、年間1億円以上の修繕費を費やし、施設の延命を行っています。
- 建設にあたっては、人口規模などの面から国の交付金が対象になりません。
- 高萩市は、茨城県44市町村の中で、唯一、自市で「ごみの処理施設(焼却施設)」を持たず民間処理業者に委託している状況が続いています。

# 高萩市・北茨城市で、一緒に新しい「清掃センター」をつくる目的

- ① 循環型交付金の人口要件(人口5万人以上)を満たすことで国の補助が受けられる
- ② 津波浸水地域により、復興交付税も対象になり、市民への負担が少ない(①と②で最大97.5%の国の補助)
- ③ 施設建設費の削減
- ④ 廃棄物の適正かつ安定的な処理
- ⑤ 環境への配慮、リサイクルの推進



将来のために  
新しい「清掃センター」  
の建設

## 人口

	平成29年	平成33年
高萩市	29,297人	28,376人
北茨城市	44,350人	43,310人
合計	73,647人	71,686人

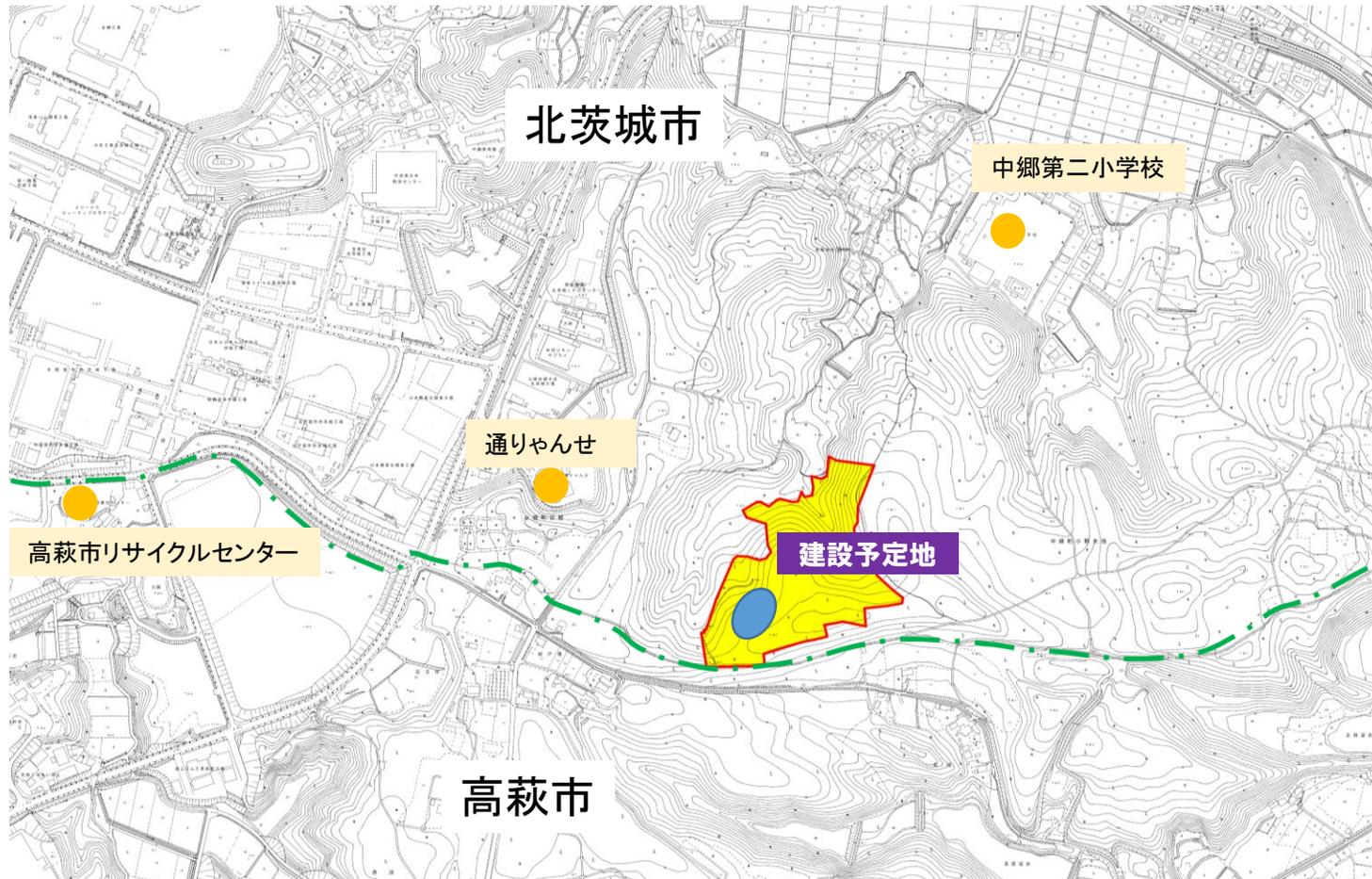
## ごみの量

	平成29年	平成33年
高萩市	9,327トン	8,959トン
北茨城市	15,791トン	15,393トン
合計	25,118トン	24,352トン

※「人口」、「ごみの量」ともに、平成33年度は推計値を記載。

## 2 建設予定地

- ごみの収集運搬にあたり、両市の中心(市境付近)にあること
- 防災上の危険性が少ないこと(浸水や土砂災害等の指定がない)
- 一定程度のまとまった土地が早期に確保出来ること 等



# 3 施設の規模と排出基準

## • 施設規模

ごみ焼却施設（エネルギー回収施設）

処理能力 最大 85 トン／日（最大42.5トン/日×2炉）

※不燃物・粗大ごみ処理施設（破砕機併設）

※詳細は、施設整備基本計画・設計で決定します。

## • 主な排出基準

項目	国の基準	市が目指す自主規制値	北茨城市清掃センター測定結果（H29）
ばいじん (g/m <sup>3</sup> )	0.15 (0.08)	0.02	最大 0.017
窒素酸化物 (ppm)	250	50	最大 74
塩化水素 (ppm)	430	25	最大 23
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m <sup>3</sup> )	5 (1)	0.1	最大 0.025
水銀 (μg/m <sup>3</sup> )	30	—	1 以下

※新施設基準の( )は、85トン/日×1炉の場合の基準値を記載。新施設の自主規制値は、施設整備基本計画・設計で決定します。

# 4 排ガス処理の流れ

(参考例)

(略)

# 5 生活環境影響調査の実施について

## ○生活環境影響調査の流れ

### ・現況把握



### ・予測 施設稼働時の予測



### ・影響の分析

濃度最大地点、敷地境界、  
周辺人家等の地点を含む  
地域

## ○現況把握の項目

### ・大気

気象、二酸化硫黄、二酸化窒素、  
浮遊粒子状物質、塩化水素、  
水銀、ダイオキシン類 等

### ・騒音、振動 現況、交通量 等

### ・悪臭

アンモニア、硫化水素等22物質、  
臭気指数

### ・水質 BOD、SS 等

## 6 先進地見学会について

○平成31年3月8日，13日に施設見学を予定しております。

視察先	飯能市クリーンセンター（埼玉県）
処理能力	80トン/日（40トン/日×2炉）
処理方式	全連続燃焼式ストーカ方式
余熱利用	蒸気タービン発電
竣工	平成29年12月